

社会貢献若手人材育成プログラム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：名古屋大学（総括責任者：濱口 道成）

プロジェクトの概要

学内に、社会貢献人材育成本部を設置し、産業界・地域社会等と協力し、専門的知識・経験を有する若手人材（大学生・大学院生・社会人）に対して、学問分野の専門知識や能力だけでなく、国際的な幅広い知識や視野を持ち、産業界などの実社会で活躍する能力を養成する。研修内容は、1. 就職前ビジネス研修、2. 業界団体等と協力して実施する即戦力人材養成研修、3. 多様な派遣先での長期インターンシップ、を行う。また、当該本部の設置により、大学全体をカバーする支援体制を作り上げ、更に、人材紹介企業等と連携した自立化の仕組みを立案する。その上で、産業界や地域社会に貢献する人材として、常にブラッシュアップし続けていく体制を作り上げる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	s	s	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

博士人材の養成、キャリアパス拡大は大学院の優秀な博士研究者確保に重要との総長の強いリーダーシップの下に本事業を実施し、スタッフが博士人材の進路相談、キャリア開発支援に手厚く向き合い、きめ細かなフォローアップをする仕組みを構築した。他機関の養成対象者にも開放したことで拠点としての効果も果たし、多くの博士人材を企業等に輩出している。本事業の効果もあり大学院博士課程（後期）への入学者が大きく増えており、イノベーション人材養成の新しいビジネスモデルを構築したことは高く評価できる。

- ・**目標達成度**：本事業としての長期取組修了者を含めた養成者数は、初期の養成者数の少なさが影響し5年間の養成目標数は下回ったものの、後半の種々の対策により概ね達成した。被養成者以外の多数の登録者に対しても個別面談、キャリア支援を行ったことで学内外の博士人材全体の養成の底上げに貢献している。また、学内外全体への波及効果が目に見える形で出たことは高く評価できる。
- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：固定したシステムではなく、本事業に応募する養成対象者のニーズを的確に把握し、長期取組先、就職先の相談、決定に関しきめ細やかな対応を行い、テラーメイドの支援をしている点は高く評価できる。学内教員、博士人材の意識改革が進んでいることも定量的なデータで示されている。

- **実践プログラムの開発・運用状況**：効果的なカリキュラムの開発、並びに、個別訪問などによる積極的な長期取組先、就職先等の進路拡大により、教員、学生の本事業に対する理解、意識改革が進んだ。その結果、ポストドクター、博士課程（後期）学生の企業への就職が向上し、また、博士課程（後期）への入学者数も増加したことは評価できる。
- **実施体制**：総長の博士課程後期学生、ポストドクターの人材養成に対する強い問題意識から、産業界と連携した実施体制を構築するとともに、ネットワークを活かした産学連携の円滑な人材育成を可能にしたことは高く評価できる。きめ細やかなメンター制度が機能していることも評価できる。
- **今後の進め方**：構築されたシステムは非常に円滑に進められている。また、自己資金の投入を含めた中長期的な計画も立てられており、事業の継続が十分期待できる。